

刀の見どころと

魅力

日本刀とは……

日本刀(にほんとう)は、日本固有の鍛冶製法によって作られた刀類の総称である。

刀剣類は、日本では古墳時代以前から製作されていたが、一般に日本刀と呼ばれるものは、平安時代末期に出現してそれ以降主流となった反りがあり刀身の片側に刃がある刀剣のことを指す。

寸法により刀(太刀・打刀)、脇差(脇指)、短刀に分類される。広義には、長巻、薙刀、剣、槍なども含まれる。

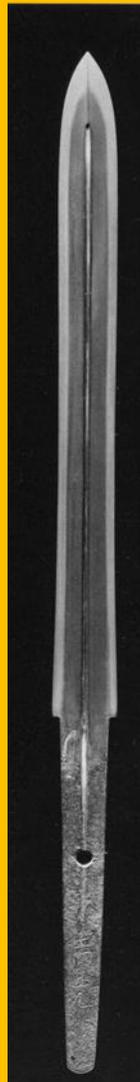
魅力—その1 刀剣の種類



槍



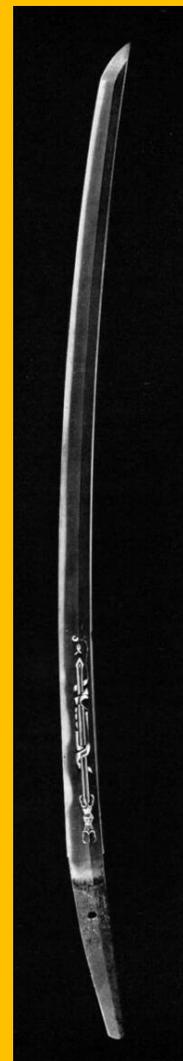
薙刀



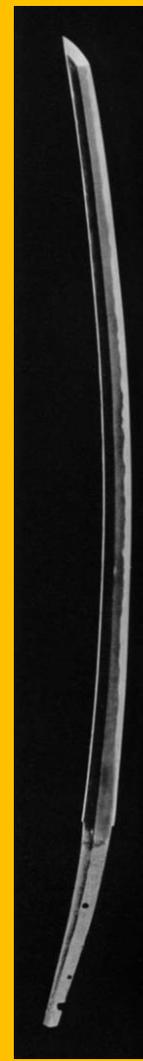
剣



短刀



打刀



太刀

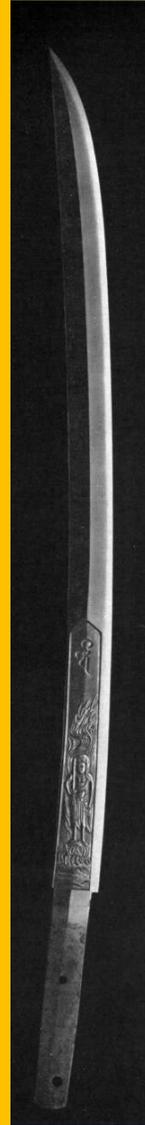
魅力—その2 刀剣の造り込み



おそらく造り



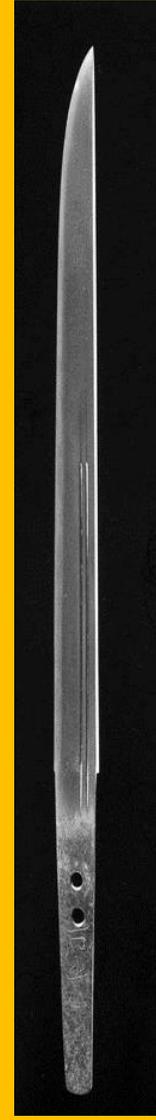
両刃造り



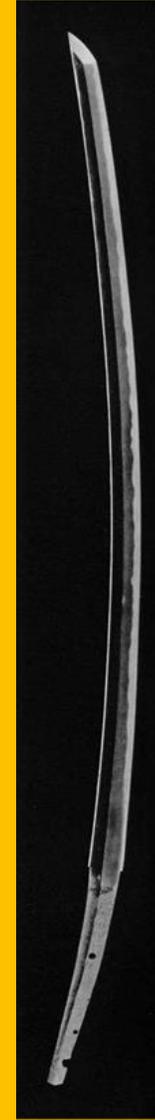
鶉の首造り



菖蒲造り



平造り

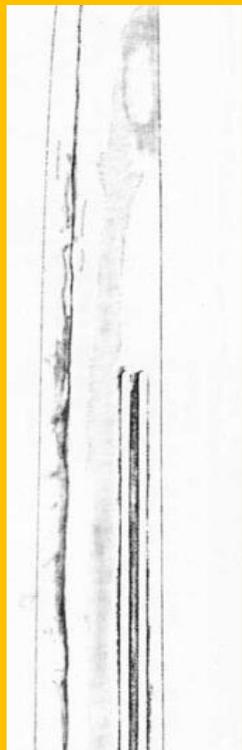


鎬造り



切刃造り

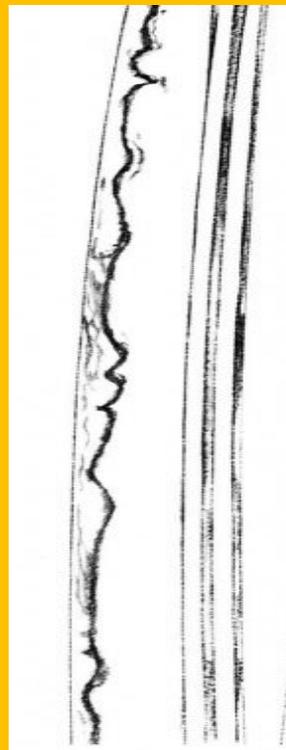
魅力—その3 刀剣の刃文



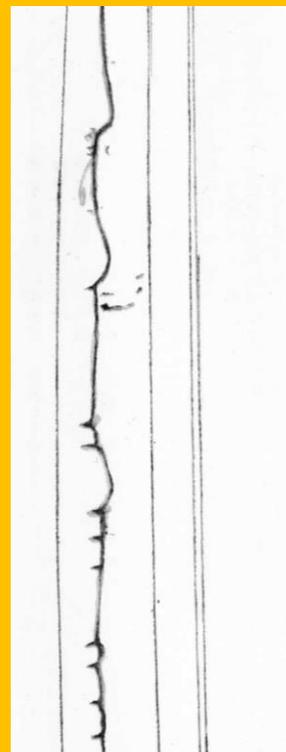
中直刃
粟田口吉光



蛙子丁子
長船長光



大のたれ
相州貞宗

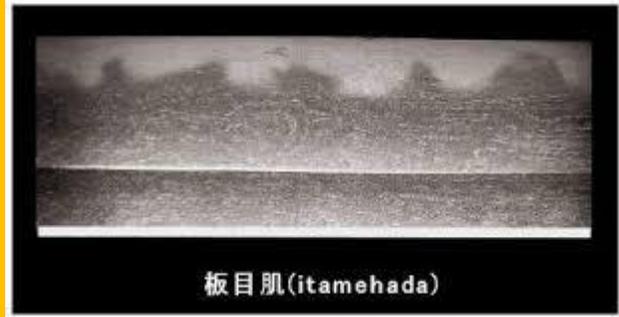


互の目
筑州左文字



小乱れ
豊後行平

魅力—その4 刀剣の鍛え肌



魅力—その5 刀剣の切っ先

きっさき
かます鋒／
かます切先

こきっさき
小鋒／
小切先

いくびきっさき
猪首鋒／
猪首切先

ちゅうきっさき
中鋒／
中切先

おおきっさき
大鋒／
大切先



平安時代



鎌倉時代



南北朝時代

魅力—その6 刀剣の茎



【普通形】
刀銘 備前国住長船忠光



【雉子股形】
太刀銘 宗吉作



【振袖形】
短刀銘 来国俊



【舟底形】
刀 無銘 貞宗



【タナゴ腹形】
脇差銘 勢州桑名住村正



【葉研形】
刀銘 繁慶

魅力—その6 刀剣の彫刻

写真提供／銀座長州屋



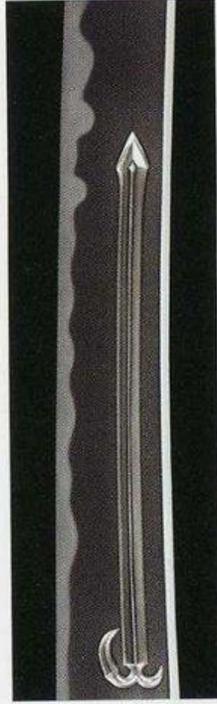
梅樹

江戸時代に入ってから好まれた、装飾的な意味合いのある図柄。梅の樹を剣に見立て、これに龍が巻き付いた図柄もある。刀身は「宗重」。



旗鉞

密教で護摩行などを行うための「檀場」の四囲を飾る荘嚴具で、装飾性と信仰性を兼ねた彫物であろう。写真は武神である摩利支天を意味する図柄で、筑前国「是次」の作刀。



素剣

剣は不動明王の化身である。直線的で鋭い剣は広く好まれた図。剣の下に施された爪のような彫り物は、独鈷剣に備わっている柄部分や蓮台をデザイン化したもの。写真は「守次」。



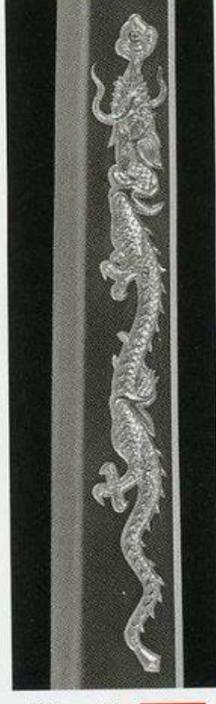
梵字

サン스크リット文字で「仏尊」を表したもので、写真は「不動明王」を表す。刀の所持者を守護する意味があるから、所持者が信仰対象を梵字で表したものであろう。刀は「國貞」。



不動明王

巖上の不動明王の身体が火炎で包まれている図柄で、「巖上瀧不動」とも、「火炎不動」とも呼ぶ。刀の作者は陸奥・一関の「充正」。



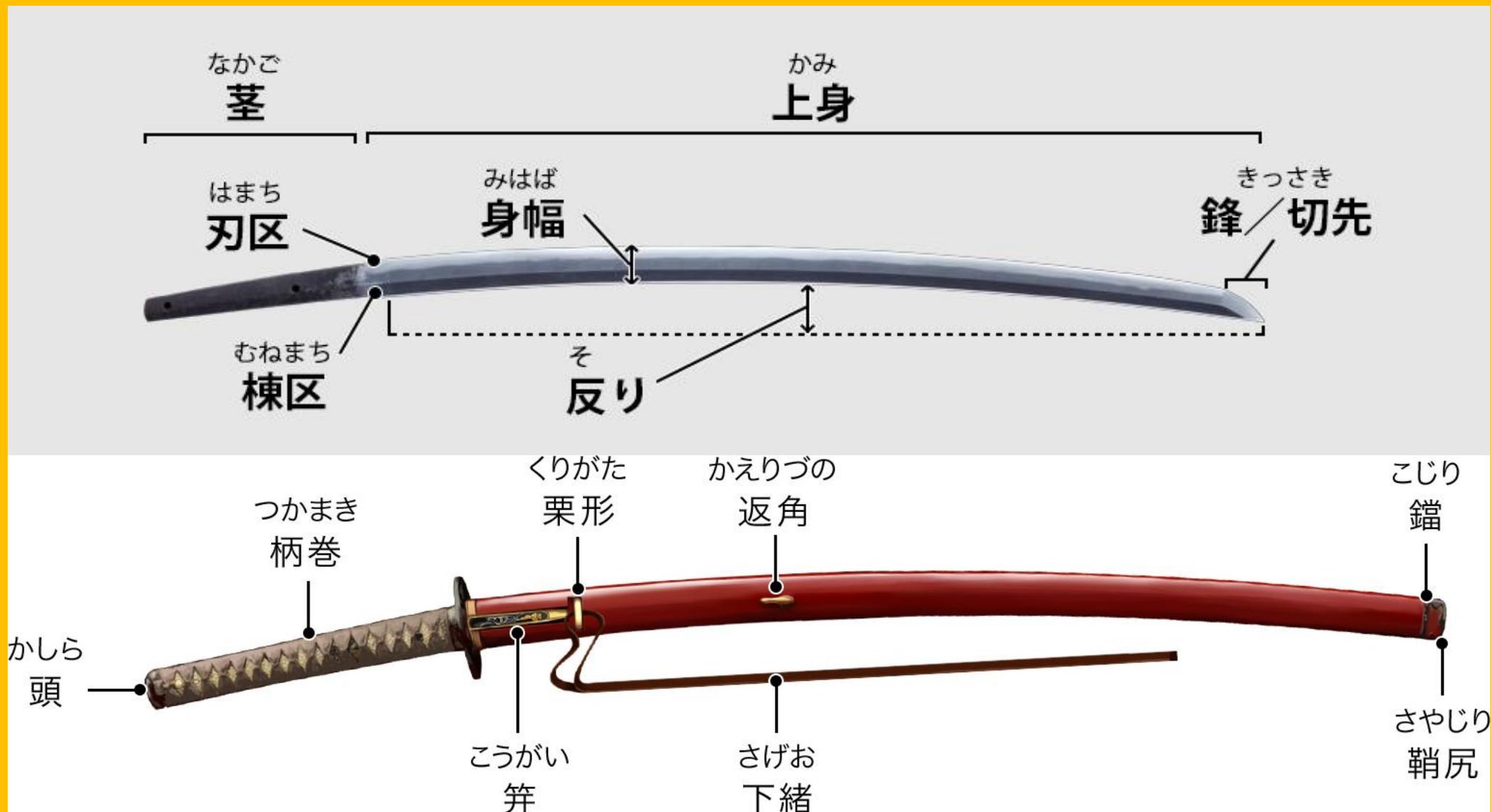
玉追龍

前方に腕を伸ばして宝珠を掴もうとして這っている「這龍の図」。宝珠を龍の前方に離して描く場合もある。

15 彫物

霊力を備えた日本刀に
祈りを込めた刀鍛冶

日本刀の名称...



日本刀の製作時代区分

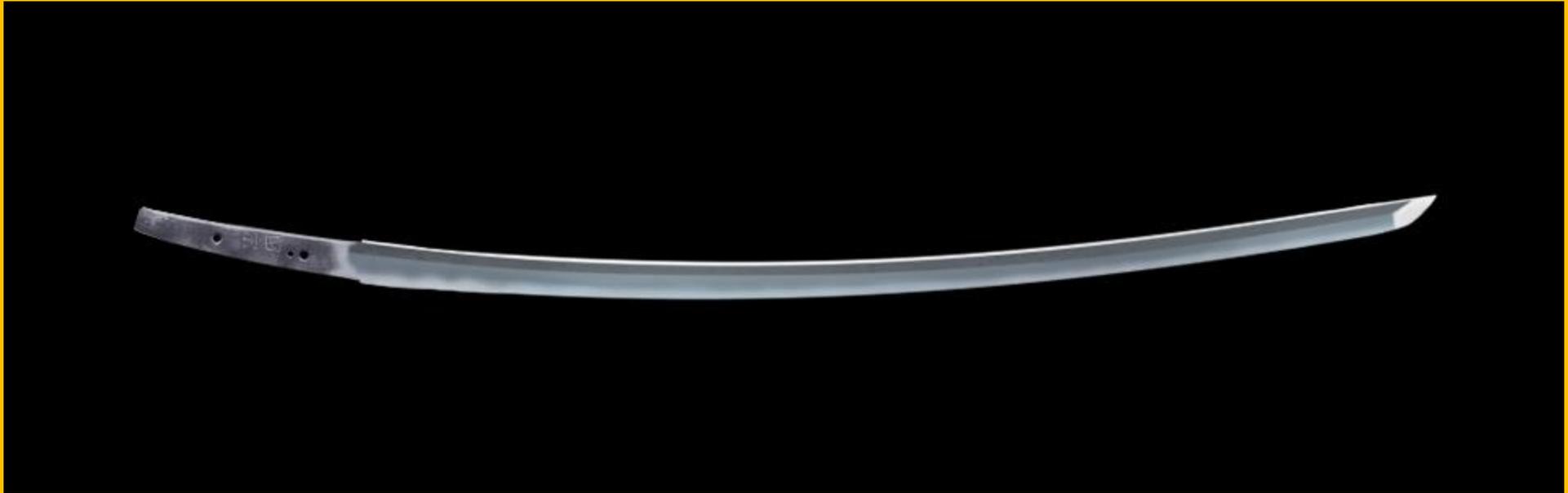
刀剣史上 の区分	日本刀の姿	年号
古刀		平安時代末期～ 1595年(文禄4年)
新刀		1596年(慶長元年)～ 1780年(安永9年)
新々刀		1781年(天明元年)～ 1876年(明治9年) 廃刀令まで
現代刀		1876年(明治9年)～

日本刀五箇伝(ごかでん)

日本における日本刀の五大刀工流派のこと。令制国の大和国・山城国・備前国・相模国・美濃国を発祥とし、それぞれ大和伝、山城伝、備前伝、相州伝、美濃伝という。これ以外の小さな流派は脇物といった。これらを系統づけたのは、代々足利將軍家に使えた研師で、豊臣秀吉以後は刀の鑑定も務めた本阿弥家であり、最終的に本阿弥光遜がまとめ上げた。確認できる五箇伝の刀工数は、備前4005、美濃1269、大和1025、山城847、相州438であった



名刀鑑賞



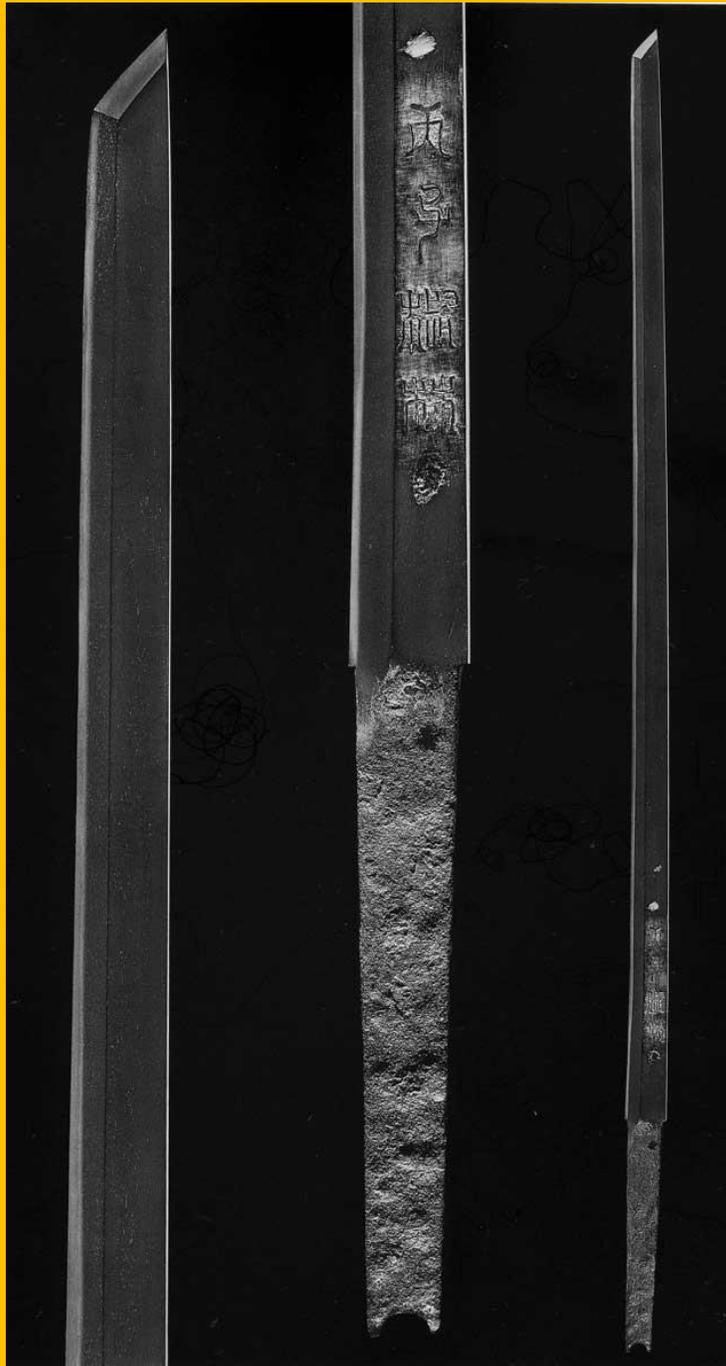
二荒山神社の太刀国宗 鎌倉時代



国宝七支刀

奈良県天理市の石上神宮に伝来する古代の鉄剣である。

全長74.8センチメートル、剣身の左右に段違いに3本ずつ、6本の枝刃を持つ。剣身に金象嵌の銘文が記されている。



- 指定：国宝
- 直刀 無銘 （号：丙子椒林剣）
- 四天王寺蔵
- 長さ 65.8cm

上古刀としては現存する最高の出来であるとされる。同じく四天王寺に伝わる七星剣とともに聖徳太子の佩刀と伝えられる。この種の上古刀の伝世品（出土品でないもの）は正倉院宝物の刀剣類以外には稀少で、貴重な存在である。



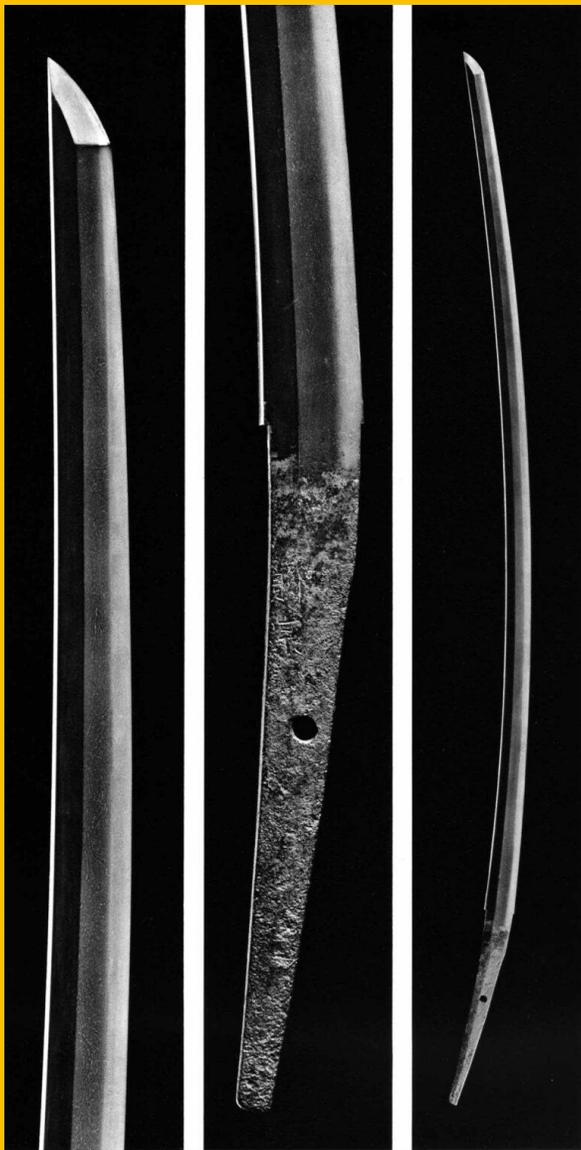
巖島神社の古備前 友成

太刀 銘「友成作」79.3cm、反り3cm
国宝 巖島神社所蔵 友成は古備前派中での代表的名
刀とされる
平安時代

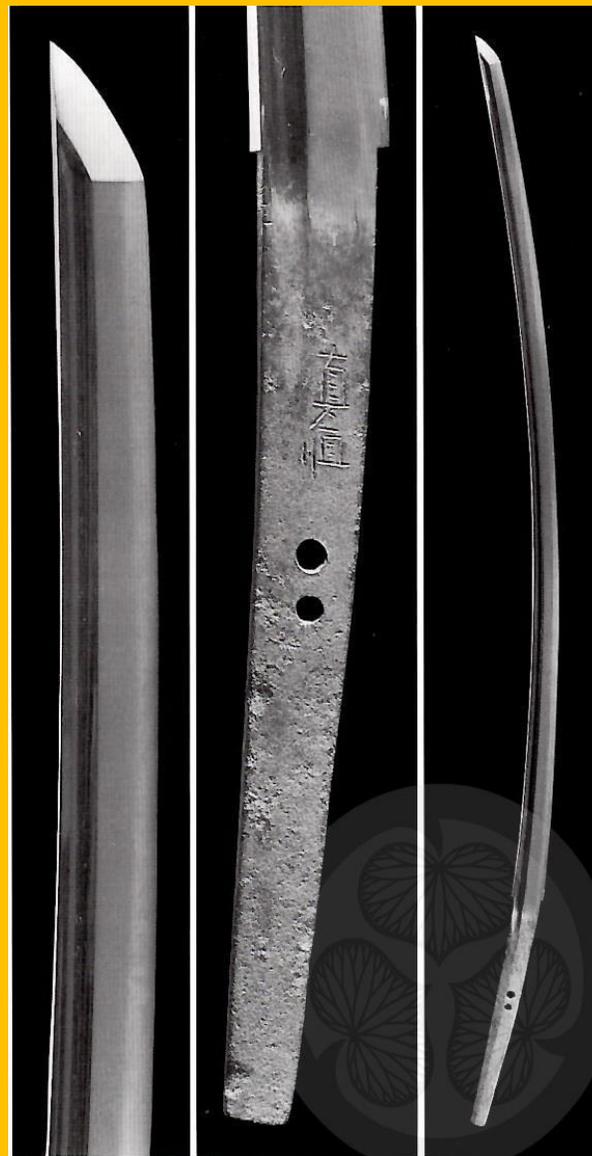


北野天満宮の「安綱」鬼切丸・髭切

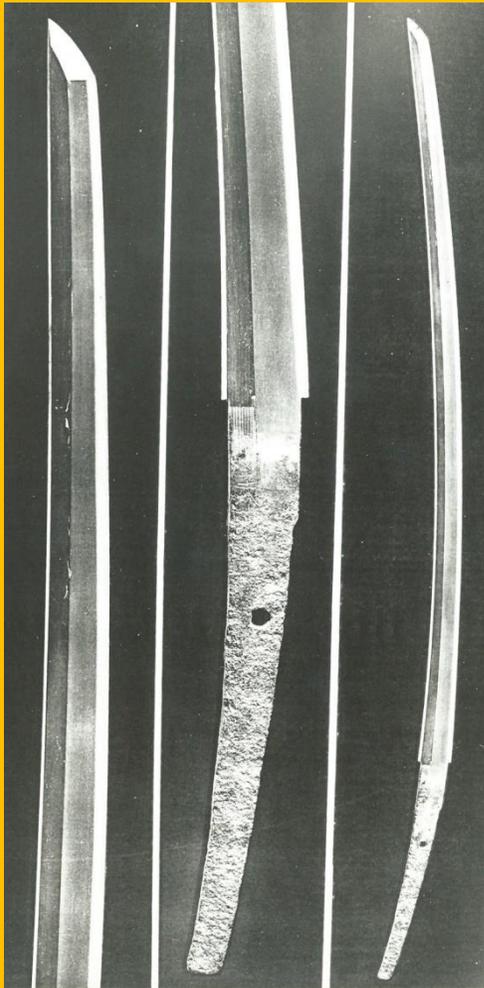
太刀 長さ83cm、反り3.3cm、重要文化財となっている
平安時代



太刀 銘 則宗 日枝神社蔵(国宝)
長さ:78.5cm、反り:2.7cm
平安時代後期

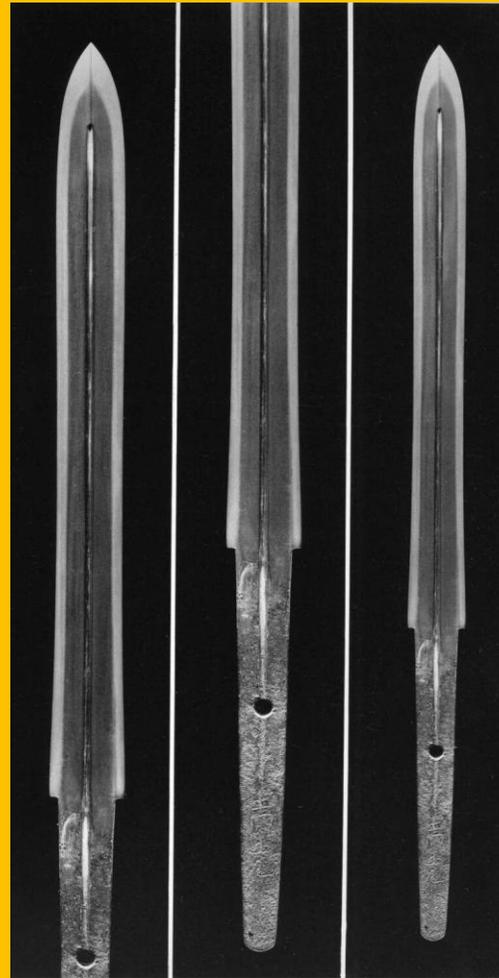


太刀 銘 真恒 久能山東照宮蔵(国宝)
長さ: 89.4cm 反り3.9cm
平安時代後期



小太刀

長さ54・4cm 反り1・67cm
銘 表 来國俊 鎌倉時代
栃木県 二荒山神社蔵
鎌倉時代前期



劔 国宝

長さ 22.9cm
反り なし
銘 吉光 鎌倉時代
石川県 白山比咩神社蔵
鎌倉時代前期



大包平（おおかねひら）

- 指定：国宝
- 太刀 銘 備前国包平作 （名物：大包平）
- 東京国立博物館蔵
- 長さ 2尺9寸4分5厘（89.23cm）
- 反り 1寸1分5厘（3.48cm）
- 平安時代後期



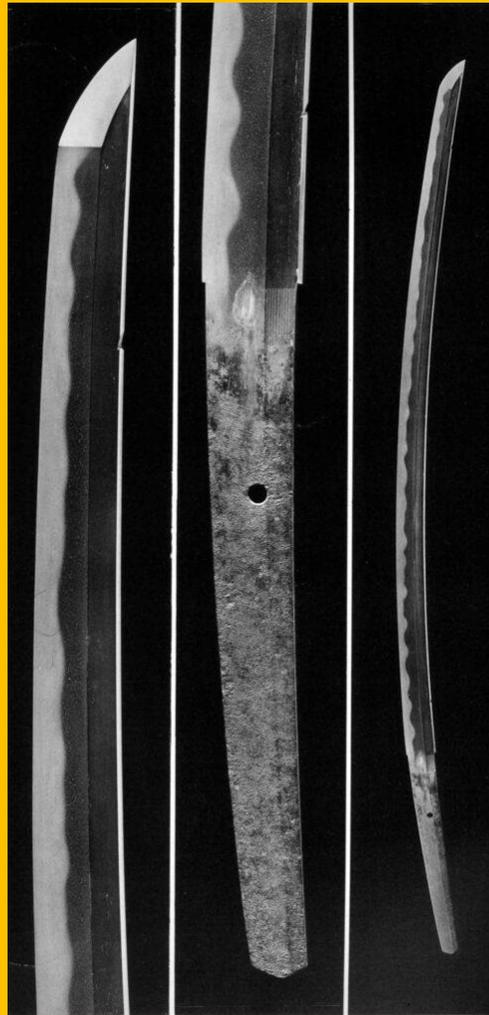
小竜景光(こりゅうかげみつ)

- 国宝 太刀 銘 備前国長船住景光
元亨二年五月日 (号:小竜景光)
- 東京国立博物館蔵
- 長さ 73.9cm 反り 3.0cm
- 鎌倉時代中期



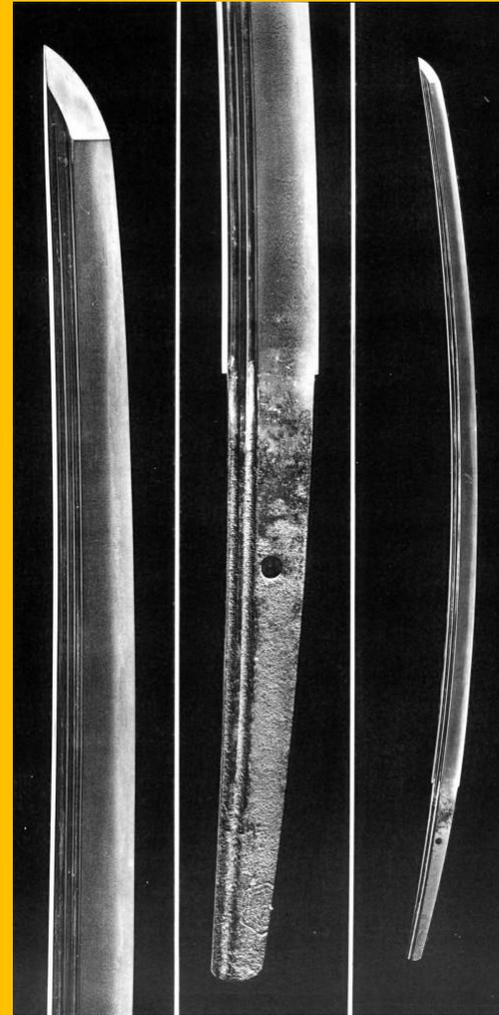
大般若長光 (だいはんにやながみつ)

- 国宝 太刀 銘 長光 (号:大般若長光)
- 東京国立博物館蔵
- 長さ 73.6cm 反り 3.0cm
- 鎌倉時代中期



石田正宗(いしだまさむね)

- 指定:重要文化財
- 刀 無銘 相州正宗 (名物:石田正宗)
- 東京国立博物館蔵
- 長さ 2尺2寸7分(68.78cm)
- 反り 8分2厘(2.48cm)



亀甲貞宗(きっこうさだむね)

- 指定:国宝
- 刀 無銘 相州貞宗 (名物:亀甲貞宗)
- 東京国立博物館蔵
- 長さ 2尺3寸4分(70.9cm)
- 反り 8分弱(2.42cm)



古今伝授の太刀(こきんでんじゅのたち)

- 指定: 国宝
- 太刀 銘 豊後国行平作 (号: 古今伝授の太刀)
- 永青文庫蔵
- 長さ 2尺6寸4分(79.9cm)
- 反り 9分8厘(2.9cm)



村雨助広(むらさめすけひろ)

- 刀 銘 津田越前守助広 村雨 延宝六年二月日 (号: 村雨)
- 長さ 2尺7寸4分(83.0cm)
- 反り 1分4厘(4.2cm)



日本号 (にほんごう)

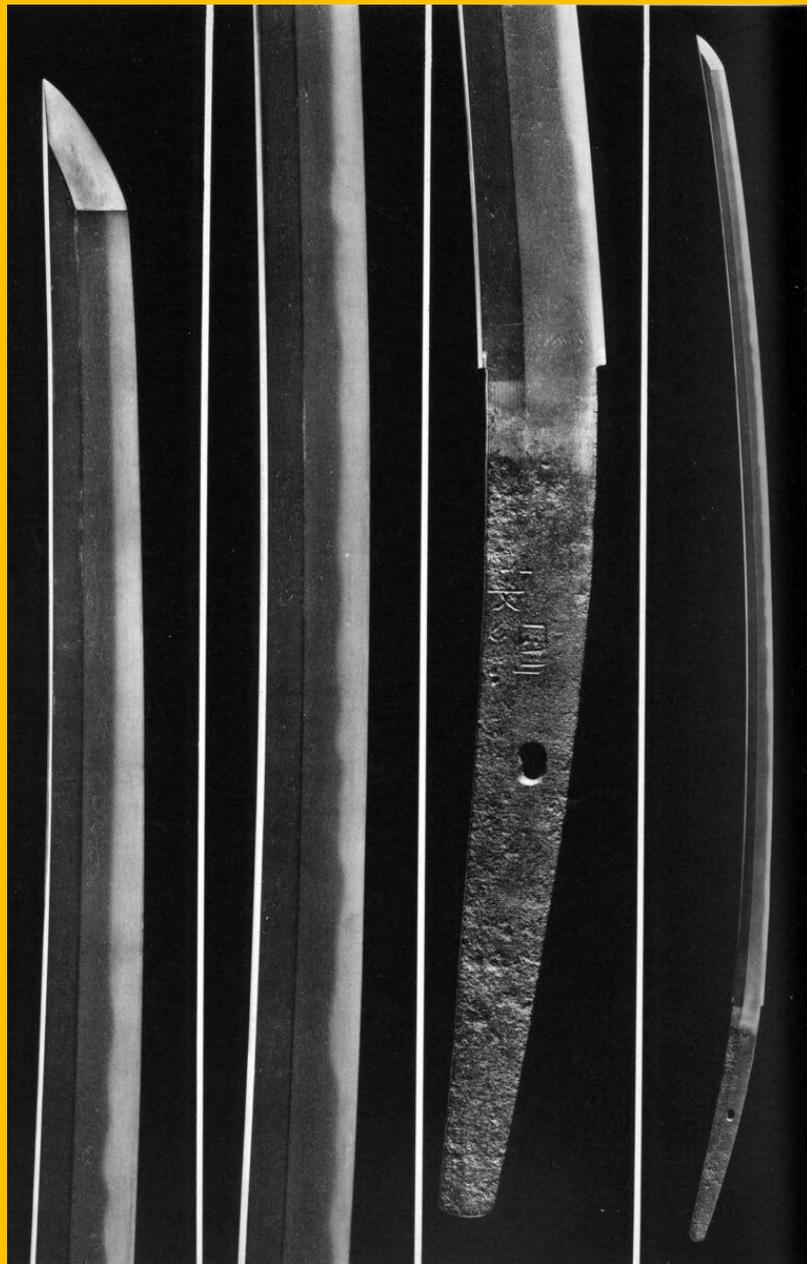
- 金房政次 (号：日本号)
- 福岡市博物館蔵
- 大身槍 無銘長さ 79cm 反り なし
- 室町時代



蜻蛉切 (とんぼきり)

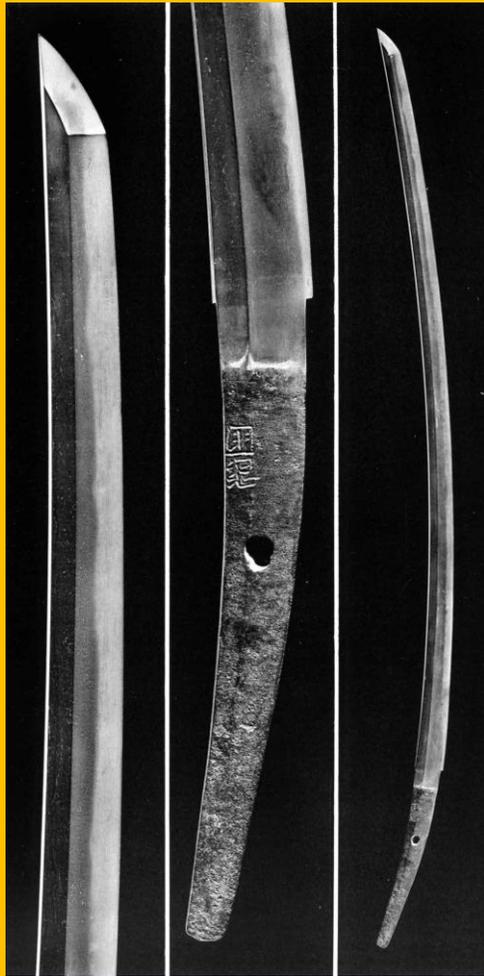
- 槍 銘 藤原正真作 (号：蜻蛉切)
- 長さ 43.7cm 反り なし
- 室町時代

天下五劍



童子切安綱(どうじぎりやすつな)

- 指定: 国宝
- 太刀 銘 安綱 (名物: 童子切)
- 平安時代
- 東京国立博物館蔵
- 長さ 80.2cm 反り 2.7cm
- 平安時代中期



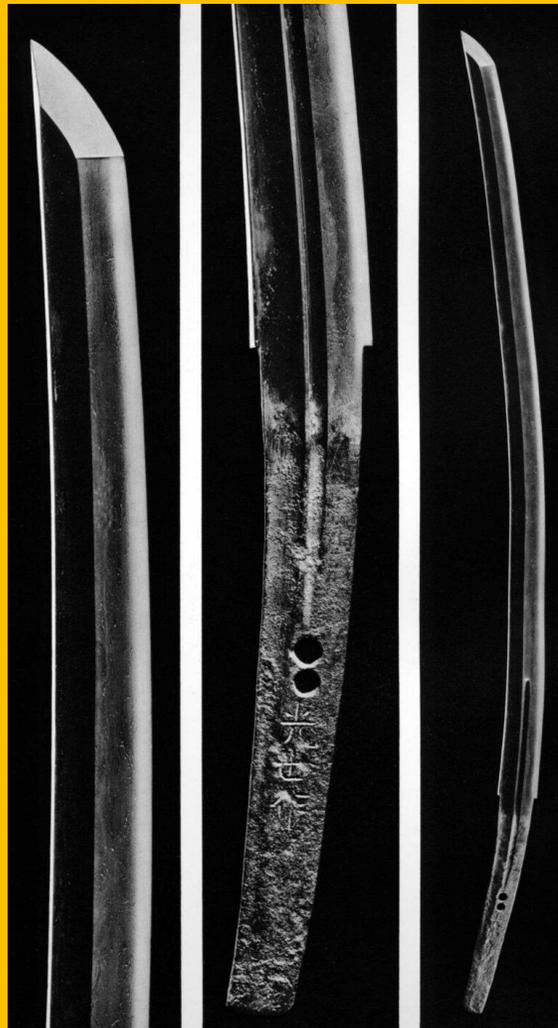
鬼丸国綱（おにまるくにつな）

- 御物 太刀 銘 国綱（名物：鬼丸国綱）
- 宮内庁蔵
- 長さ 78.17cm 反り3.0cm
- 鎌倉時代前期



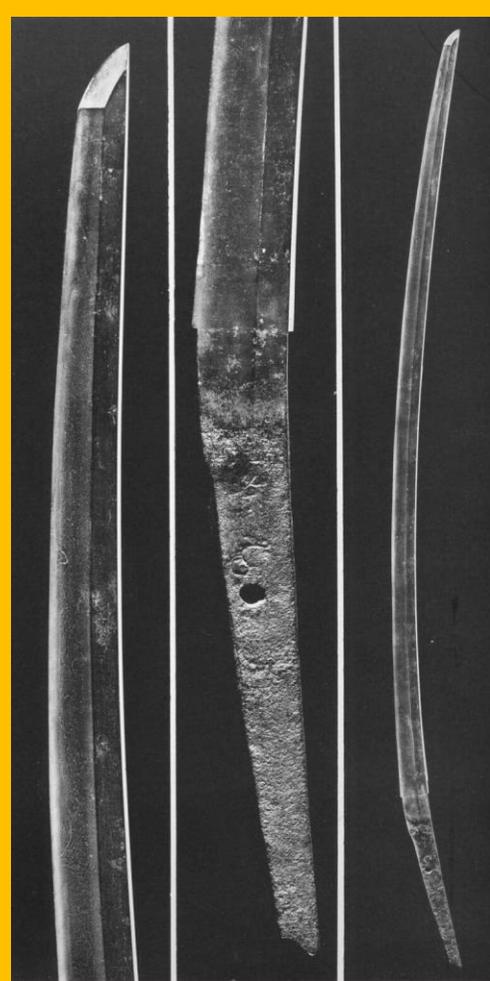
数珠丸恒次（じゅずまるつねつぐ）

- 重要文化財 太刀 銘 恒次（名物：数珠丸恒次）
- 本興寺蔵
- 長さ 83.9cm 反り 3.0cm
- 平安時代後期



大典太光世（おおてんたみつよ）

- 国宝 太刀 銘 光世作(名物:大典太)
- 前田育徳会蔵
- 長さ 66.1cm 反り 2.7cm
- 平安時代後期



三日月宗近（みかづきむねちか）

- 国宝 太刀 銘 三条(名物:三日月宗近)
- 東京国立博物館蔵
- 長さ 80.0cm 反り 2.8cm
- 平安時代中期

上杉景勝御手選 三十五腰之内

上杉景勝が父上杉謙
信より受け継いだ蔵刀
類の中から名刀三十五
振を選びすぐったものを
いう



姫鶴一文字 (ひめつるいちもんじ)

- 重要文化財 太刀 銘 一 号:姫鶴一文字)
- 米沢市上杉博物館蔵
- 長さ 71.66cm 反り 2.12cm
- 鎌倉時代前期



山鳥毛 (さんちょうもう)

- 国宝 太刀 無銘 一文字 (号:山鳥毛)
- 長さ 80.3cm 反り 3.18cm
- 鎌倉時代前期

日本刀とは・・・

日本では古来より、剣には悪しきものを祓い断ち切る力があるとされてきており、剣にまつわる神々が、武神・守護神として存在している。

古事記・日本書紀に天叢雲剣などの神剣・霊剣が存在し、それらを振るった日本武尊など、英雄の逸話が伝えられている。現在も、一部の神社では刀を御神刀として祀られている。

現代いう日本刀の成立は、平安時代、武士の成立とほぼ同時期であった。武家の棟梁たちは、代々名刀を珍重して伝え、名刀には伝説が伴う。例えば童子切安綱は源頼光が酒吞童子を切った刀と伝わり、渡辺綱が一条戻橋の鬼を斬ったという髭切は源氏の棟梁の象徴とされた。

「刀は武士の魂」とは言われることがあるが、この言葉自体は近代に生まれた言葉とも言われている。

江戸時代、武士以外に刀を所持し、腰に指すことは許されていた。